



毎年コアジサシが渡ってくる前に、スタッフとボランティアたちの手でデコイ（コアジサシの模型）が設置される。
コアジサシには集団で営巣する習性があるため、デコイに誘われてここに降り、営巣するという。

都心で 絶滅危惧種を守る

NPO法人

リトルターン・プロジェクト

施設の屋上で子育てする
コアジサシのために

絶滅危惧種の鳥、コアジサシ*1がえさをくわえて、ある施設の屋上に向かって飛んでいく。そこは、棲家を追われ続けたコアジサシがやっと見つけた「ホーム」だった。

NPO法人リトルターン・プロジェクト（以下LTP）は、2001年、東京都森ヶ崎水再生センターの施設屋上で営巣を始めたコアジサシの保全を目的に設立された。屋上は、平らな地面に産卵するコアジサシにとって格好の場所ではあったが、コンクリートの上では卵が風で飛ばされるなど、子育てには過酷な環境だった。そこで、発見者たちと東京都下水道局、大田区が話し合い、保全活動のプロジェクトがスタートする。

今回、お話をうかがったのは、LTPで調査研究部会のリーダーを務める奴賀俊光さん。奴賀さんは初期メンバーではなく、最初にボランティアとして参加し、その数年後にコアジサシの共同研究を持ち掛けたのがスタッフとなったきっかけだったそ



奴賀俊光さん

うだ。普段は人の立ち入りが禁止されていることや、人工の営巣地で区画整備されていることから、調査や研究がしやすいと考えたという。また、ガラスなどの天敵対策の効果を調べることも可能だった。

活動は、大きなものが2つ。コアジサシを迎え入れる準備である営巣地整備作業と繁殖期の営巣調査だ。前者は主に毎年3月の最終週末の2日間をかけ、営巣地の草むしりやヒナを守るシエルターの設置などをし、後者は5〜8月の毎週末に繁殖の様子を調査する。コアジサシがいない秋・冬期は、大田区の催しや環境系のイベントにブースを出して活動紹介をしたり、デコイ（コアジサシの誘致に使うコアジサシの模型）づくりをしたり、毎年12月には活動報告会を開催するなど、活動は年間を通して行っている。

現在、LTPでは、さまざまなボランティアが活躍している。営巣地整備のために体を動かす人、調査・研究の協力者、啓発や広報のサポートをする人、天敵対策の協力者やコ



コアジサシ観察会の様子。施設の屋上で区画整備されているので、巣の位置や卵の数などが把握しやすい。

アジサシが好む貝殻を格安で提供してくれる業者など、多くの人が手と知恵を提供してくれている。地元の人、退職したシニアの人、研究者、町工場の社長、学生、職人、企業の人など、属性も多岐にわたっている。屋上の砂利は大田区と下水道局とが協働して、重機で敷き詰めてくれた。また、大田区が環境基本計画で、区民の50%にコアジサシを知ってもらおうという目標を立てて、宣伝に努めている。ちなみに、2010年の調査ではコアジサシを知っている人は34.1%であった。

コアジサシ保全から見えるもの

コアジサシは1970年代にはよく見られたそうだ。埋め立てが盛んな時期で、高い草もない平らな土地が多く、営巣がしやすかったのではないかと奴賀さんは推測する。しかし、埋立地にはビルが建ち、2000年代には少なくなってしまった。活動を始めた2001年から2016年までに、累計8千羽以上(推定)のヒナが屋上で誕生した。コアジサシは真夏の暑い日には卵を温めるのではなく、お腹に水をつけて卵を冷やす。卵が暑くなったり天敵に食べられるのを防ぐため、巣を留守にする時間を短縮できるよう、近くに水場をつくった。こうしたことは、人工営巣地だからできることだ。

活動は活発で関わっている人も多いが、課題は少なくない。コアメンバーのほとんどが働きながら活動しているため、現在の人数では十分ではない。台風や強風のとき、駆けつけてくれるような地元の人たちも必要だ。

現在、力を入れている取り組みは、カラス対策と渡りルートの追跡調査。コアジサシは天敵が多く、とくに頭のいいカラス対策はたちこつこになる。追跡調査については、水鳥研究会や日本鳥類保護連盟と協働してジオロケータ(照度計)*2とGPSで渡りルートを調べている。奴賀さんは語る。「コアジサシの環境を整えることで、類似した環境で暮らす鳥も守ることができます。ひいては、生態系の一部としての人間の暮らしを守ることもつながるので、絶滅種が増えると人間にも必ず影響が出ますから」

最後に、メッセージをいただいた。「調査や観察会に参加したら、コアジサシの子育ての様子を間近で見ることがができます。コアジサシや活動について知ること、生き物や環境への関心が広がると思います。今年も3月の最終週末に営巣地の整備作業を行うので、まずそれに参加してください!」

*1 くちばしと足が黄色く、ツバメに似た容姿をしている。全長は28cm。4月に海岸の砂浜や河川の河原・中州に飛来し、5〜8月に繁殖期を